

今、中小企業の会計が大きく変わる

・・・日本でいち早く私たちが取り組みます・・・

1. はじめに

前回分のご購読いただきありがとうございます。今回もよろしくお願ひいたします。

さて前回の記事の中で「中小企業の会計に関する指針」が活用されていない理由の一つとして、会計を難しく考えられていることを挙げさせていただきました。

今回はなぜ会計が難しく考えられているのか。そして、その難しさに対して、これからどのような変化をしていこうと考えられているのかを見ていきたいと思ひます。

2. 会計の難しさ

会計の難しさの一つとしては、日常生活の感覚と会計の考え方にズレがあることです。たとえば、日常生活で品物を購入してお金を払いましたら、「費用がかかったな」という感覚になります。一方、会計で同じような時に、全てが「費用」になるわけではありません。

企業で会計を行う上で、いつ「費用」となり、いつ「費用」とならないのかを判断しなければならぬのですが、日常の感覚とのズレがあることで難しさを覚えてしまひます。

3. 会計と税との関係

さらに難しくしているのは、会計と税との関係です。会計での「費用」と税の計算をする上での「費用」（税の言葉では「損金」と言ひます）の考え方にもズレがあります。

会計では「費用」であっても税では「費用」としないでおこうというものが存在してしまひます。そのような会計と税とのズレと、先ほどの日常生活の感覚と会計とのズレとが相まって、会計に対する難しさを大きくしてしまひています。

4. 今後の方向性は

そこでまず、税の部分をいったん切り離し、会計の考えを理解してもらおうという流れで、変革への取り組みがなされてしまひます。

そしてさらに、会計の考え方をより多くの人に理解してもらいたという思ひを念頭に、現在、中小企業庁において、新たな中小企業のための会計指針の作成が行われており、それが来年公表される予定になってしまひます。

会計を経営者が自ら遵守しようと思ひ、経営者が自ら理解でき、経営者が自社の経営状況の把握に役立つものへ

執筆：AFP 大熊信行